第２学年　音楽科　学習指導案

１　題材名　　箏の様々な奏法を用いて私たちの「さくらさくら」を表現しよう

２　題材の目標
・箏の様々な奏法による演奏効果の違いに興味や関心をもち，他とかかわり合いながら学習に取り組むことができる。　【音楽への関心・意欲・態度】
・箏の様々な奏法によってどのような演奏効果が生まれるのかを感じ取り，自分たちのイメージに合わせた表現を工夫することができる。　【音楽表現の創意工夫】
・箏の奏法を身に付け，自分たちが思い描く桜の情景を様々な奏法等を活用して，「さくらさくら」の曲をもとに音楽で表現することができる。　【音楽表現の技能】
・箏の奏法による演奏効果の違いを聴き取り，使用する箏の奏法が自分たちが思い描く桜の情景と合っているのか聴き合うことができる。　【鑑賞の能力】

※題材の目標　（新学習指導要領３３年度より全面実施）
・箏の様々な奏法と音色や響きとのかかわりを理解し，自分たちが思い描く桜の情景を，「さくらさくら」をもとに箏で表現できる技能を身に付ける。　［知識・技能］
・知覚・感受しながら，自分たちが思い描く「さくらさくら」にふさわしい箏の奏法を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。
［思考力・判断力・表現力］
・箏の奏法と音色や響きとのかかわりに関心をもち，自分たちが思い描く桜の情景を，箏の様々な奏法を用いて演奏する学習に仲間とともに主体的に取り組む。
［学びに向かう力，人間性等］

３　題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
箏の奏法による演奏の違いに興味や関心をもち，他とかかわり合いながら主体的に活動に取り組もうとしている。	箏の奏法の違いによってどのような効果が生まれるのかを感じ取り，自分たちのイメージに合わせた演奏に生かそうとしている。	箏の奏法を身に付け，様々な奏法を活用して，自分たちが思い描く桜の情景を，「さくらさくら」をもとに箏で表現している。	それぞれのグループの発表を，思い描く桜の情景と箏の技法を関連付けながら聴いている。

※題材の評価規準　（新学習指導要領３３年度より全面実施）

知識・技能	*思考力・判断力・表現力等*	*主体的に学習に取り組む態度*
箏の様々な奏法と音色や響きとのかかわりを理解し，自分たちが思い描く桜の情景を，「さくらさくら」をもとに，箏の様々な奏法で表現できる技能を身に付けている。	*知覚・感受しながら，自分たちが思い描く「さくらさくら」にふさわしい箏の奏法を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。*	*箏の様々な奏法と音色や響きとのかかわりに関心をもち，自分たちが思い描く桜の情景を，箏の様々な奏法を用いて演奏する学習に仲間とともに主体的に取り組んでいる。*

４　題材と指導の構想（研究主題とのかかわり）

新潟市中学校教育研究会　音楽部　研究主題
「感性を働かせ，仲間と共にかかわり続ける生徒の育成」

（１）題材と生徒
今まで箏の授業で感じたことは，生徒は箏の授業が好きだということである。特に音符が読めない生徒は音楽を苦手と感じていることがあるが，箏は数字譜どおりに弦を弾いていくと，音符が読めなくても曲が演奏できるという楽しさや喜びを味わうことができる。そこで，この箏を使って音楽を展開したいと考えた。

昨年度，事前に１年生に対して行ったアンケートでは，下の表のような結果であった。このアンケート結果からもわかるように，箏の曲は聴いたことがあるものの，箏に初めて触る，箏を初めて学ぶ生徒がほとんどであったため，箏について高い興味や関心をもって学習することができた。

（表１）

項　　目	
箏の曲を聴いたことがある	９７％
箏を見たことがある	３７％
箏が家や親戚の家にある	７％
箏を弾いたことがある	１０％
箏で曲が弾ける，または習っている	０％

また昨年度は，独特な箏の音色について注目させるために，箏の他に三味線やギター，ヴァイオリンなどの様々な弦楽器を自ら弾き比べるとともに，教師が弾いた音を聴き比べる学習を行った。その後，箏の演奏で基本的な奏法を学び，ほとんどの生徒が右手の親指だけで「さくらさくら」を弾くことができた。更に，様々な奏法を学び，押し手やかき爪，すり爪を使用した「さくらさくら」にも挑戦した。最後に「六段の調」の鑑賞を行い，映像で専門家の箏の演奏に触れ，奏法による音色の変化など，授業の初めに注目した箏の音色について，学習したことを更に深めることができた。

今回の授業では，昨年度学習した箏の技能や，奏法によって変化する箏の音色などをもとに，更に発展させた授業を展開したいと考えた。既習教材の「さくらさくら」の曲を用いて，桜の情景をイメージし，感性を働かせ，箏の様々な奏法を用いて，仲間とかかわり合いながら私たちの「さくらさくら」を表現させていきたい。

（２）指導の構想

本題材では，昨年度の学びから更に発展させ，箏の授業を展開する。まず，箏の様々な奏法を身に付けさせ，その奏法から受けるイメージを感じ取らせたい。そして，様々な奏法を活用して思い描く桜の情景を「さくらさくら」の曲で表現させていく。本題材を通して，箏の様々な奏法が生み出すおもしろさや，表現の多様性を生徒に感じ取らせたい。

◇主体的・協働的学びを実現するための指導計画（フレームワークの工夫）

新潟市が進めている授業づくりのフレームワークは３つある。今回は，２つのフレームワークを使い授業を展開する。

１時間目【技能習得型：「～できる」を授業のねらいとして設定】

・箏の様々な奏法について技能を習得させる。

２・３・４時間目【単元型：「学習課題」から「まとめ」「振り返り」までを複数時間で構成する】

・思い描いた桜の情景について，２時間目は個人で，３時間目はグループで表現活動を行っていく。４時間目は更に練り上げる活動を展開し，まとめの発表を行い，学びを深めていく。

◇生徒が主体的に表現を追求していくために

箏の演奏家による様々な奏法の映像を準備した。この映像を見て，様々な奏法の弾き方を学び，練習を繰り返すことで箏の奏法を身に付けることができると考える。また，奏法としてよく使う「押し手」や「合せ爪」などの奏法は必ず身に付けるように押さえておきたい。また，この映像の鑑賞時に，それぞれの奏法の音楽のイメージを記入するワークシートを準備した。ワークシートにイメージや音色の特徴を記入しておくことで，思い描く桜の情景を表現するためにふさわしい奏法を根拠をもって選択できる。そして，選択したその奏法を演奏できる技能を身に付けることで，思い描いた桜の表現が可能となる。

◇生徒が協働的学びを実現していくために

３人１組のグループを１０グループつくり，２つの音楽室を使い活動する。グループ分けは，担任と相談しながらリーダーとなる生徒や配慮が必要な生徒，人間関係などを考慮しグループをつくった。これにより，協働的な学びが行いやすくなると考える。３人１組という人数も，それぞれの意見を言いやすい人数である。また，グループ活動時により積極的な話し合いや意見交換ができるように，グループ活動の前に個人で考える時間を設けた。

協働的な学びを支援する対策として，拡大楽譜を用意した。拡大楽譜に３人の意見を書き込み，弾いて試してみて，意見交換することでグループの桜の情景にふさわしい表現に深めていくことができる。

（３）研究主題とのかかわり

本題材では，グループで桜の情景をイメージし，私たちの「さくらさくら」をつくっていく。ここで感性を働かせ，箏の様々な奏法やそれに伴うリズム，速度の変化を用いて，どんな音楽にすればよいのかを仲間とかかわり合いながら試行錯誤して自分たちが思い描く桜の情景に音楽を近づけていく。

中学生時代に自分とは異なる感性に触れることは大切であり，仲間とともに音楽をつくることにより，感性と感性が触れ合うことで自分で考えているもの以上の表現が生まれてくると考える。

また，仲間が表現する「さくらさくら」を聴き，箏の奏法の多様性や様々な桜の情景を音楽から感じ取らせたい。

今回は３人１組でのグループ活動となる。３人で思いを共有し，試行錯誤する過程で意見を出し合うなど，仲間とかかわり合いながら１つの音楽を追求していく活動を通して，箏で音楽を表現させたい。

５　題材の指導計画（全４時間）

１時間目【技能習得型】

・箏の奏法による音色やイメージの違いを理解し新たな奏法を習得する。

２時間目・３時間目・４時間目【単元型】

・思い描く桜の情景をもとに様々な奏法等を活用して私の「さくらさくら」を表現する。（２時間目）

・思い描く桜の情景をもとに様々な奏法等を活用して私たちの「さくらさくら」を表現する。（３時間目・本時）

・様々な奏法を用いた私たちの「さくらさくら」を発表し，奏法と関連づけながら聴き合うことで表現の多様性を感じ取る。（４時間目）

時	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	評価				
		関	工	技	鑑	評価規準
1【技能習得型】	○様々な箏の奏法の音楽の特徴を感じ取り，新たな箏の奏法を習得する。 ・「さくらさくら」の復習。 ・様々な奏法を映像で鑑賞。 ・奏法の音色やイメージなどの特徴をワークシートに記入。 ・奏法の音色やイメージについて全体で共有。 ・既習の奏法の弾き方の確認と練習。 ・新しい奏法の弾き方の確認と練習。（押し手・合せ爪）			○	○	・様々な箏の奏法の音楽の特徴について言葉で言い表すことができる。【鑑賞の能力】 ・「さくらさくら」を演奏することができるとともに，箏の様々な奏法を箏で弾くことができる。【音楽表現の技能】 ***※箏の奏法と音色や響きとのかかわりを理解し，言葉で言い表すことができる。［知識］*** ***※箏の様々な奏法を弾く技能を身に付けている。［技能］*** （学び合い 10 －①②⑥⑦⑨⑩）
2【単元型】	○思い描く桜の情景をもとに様々な奏法等を活用して私の「さくらさくら」を表現する。 ・前時の奏法の映像を再度鑑賞し確認。 ・桜の写真を見て，桜の情景をイメージ。 ・どんな桜の情景を表現するのか話し合う。（グループ） ・グループで思い描いた情景を「さくらさくら」の曲に当てはめて楽譜の横に記入する。（グループ） ・自分たちが思い描く桜の情景にタイトルをつける。（グループ） ・思い描く桜の情景をもとに，私の「さくらさくら」を考える。（個人）	○	○			・どんな桜の情景にするのかイメージし，思い描く情景に近づけるために試行錯誤しながら工夫している。【音楽表現の創意工夫】 ・箏の奏法の音楽のイメージと自分の情景のイメージを結びつけようとしている。【音楽への関心・意欲・態度】 ***※知覚・感受しながら，自分が思い描く「さくらさくら」にふさわしい箏の奏法を工夫し，どのように***

						演奏するかについて思いや意図をもっている。 *［思考力・判断力・表現力等］* （学び合い 10 －①②③④⑤⑥⑨⑩）
3 （本時）	○思い描く桜の情景をもとに様々な奏法等を活用して私たちの「さくらさくら」を表現する。 ・桜の情景をもとに私たちの「さくらさくら」を考える。（グループ） ・それぞれのおすすめポイントを出し，班長は拡大楽譜にチェック。 ・前半の部分はどんな奏法を使ったのかそれぞれ出し合う。 ・それぞれが出し合った奏法で演奏し，メンバーで聴き合う。 ・その情景に一番合っていると思う奏法を話し合いで決定する。 （中盤，後半も同様に行う） ・全てできたらもう一度全体を弾いてみて，グループで確認する。 ・中間発表を行う。（２グループ程度）	○	○			・箏の奏法による演奏の違いに興味や関心をもち，仲間とかかわり合いながら主体的に活動に取り組むことができる。 【関心・意欲・態度】 ・箏の奏法によってどのような効果が生まれるのかを感じ取り，試行錯誤しながら自分たちのイメージに合わせた表現を工夫することができる。 【音楽表現の創意工夫】 *※箏の様々な奏法と音色や響きとのかかわりに関心をもち，自分たちが思い描く桜の情景を，箏の様々な奏法を用いて演奏する学習に仲間とともに主体的に取り組んでいる。* *［主体的に学習に取り組む態度］* *※知覚・感受しながら，自分たちが思い描く「さくらさくら」にふさわしい箏の奏法を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。* *［思考力・判断力・表現力等］* （学び合い 10 －①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩）
4	○様々な奏法を用いた私たちの「さくらさくら」を発表し，奏法と関連づけながら聴き合うことで表現の多様性を感じ取る。 ・自分たちで考えた「さくらさくら」を更に練り上げる。 ・思い描いた桜の情景と，ポイントとなる工夫について記入し，ホワイトボードに貼る。 ・３人でそれぞれの箇所を分担して演奏。 ・グループごとに私たちの「さくらさくら」を発表する。 ・発表を聴き合い感想を言う。			○	○	・箏の奏法を身に付け，自分たちが思い描く桜の情景を，様々な奏法で私たちの「さくらさくら」として表現する。【音楽表現の技能】 ・それぞれのグループの発表を聴き，思い描く桜の情景と箏の奏法を関連づけながら聴き合うことができる。【鑑賞の能力】 *※他グループの演奏から箏の奏法と思い描く桜の情景とのかかわりを感受し，言葉で言い表すことができる。［判断力］* （学び合い 10 －①⑤⑥⑦⑨⑩）

＜学び合い１０＞（音楽）

①	学習環境	支持的風土のある学習集団づくりをしている。
②	題材の目標・指導計画	生徒の技能等の実態を把握した上で，目標や計画を立てている。
③	魅力ある課題の設定	生徒の興味関心を生かした課題の工夫をしている。
④	［共通事項］の取扱	［共通事項］について，それらの働きを生徒が実感し，表現や鑑賞の学習に生かすことができるよう配慮している。
⑤	活動の手順，ルールの周知	活動の見通しが分かるように活動の手順・ルールを明確に提示している。
⑥	学習形態	生徒の実態や，ねらいに応じた適切な形態（パート・ペア等）と構成を選択し，役割等を明確に提示している。
⑦	基礎的な表現の技能	基礎的な表現の技能を身に付ける指導を題材の中で適切に位置づけている。
⑧	表現の工夫	表現したい思いや意図にもとづき，要素の働きを試行錯誤する場面を設定している。
⑨	言語事項	感じ取ったことや考えたことを音楽に関する用語などを用いて言葉で表す活動の充実を図っている。
⑩	評価・振り返り	ねらいやポイント（評価シート等で）に即して活動を振り返る場面を設定している。

６　本時の計画

（１）本時のねらい（２・３・４時間目／全４時間）
・自分たちが思い描く桜の情景について，様々な奏法を活用することを通して，私の「さくらさくら」を表現することができる。（２時間目）
・自分たちが思い描く桜の情景について，様々な奏法を活用することを通して，私たちの「さくらさくら」を表現することができる。（３時間目・本時）
・私たちの「さくらさくら」を発表し，奏法と関連づけながら聴き合うことを通して，表現の多様性を感じ取ることができる。（４時間目）

（２）構想
２時間目（前時）と３時間目（本時）４時間目（次時）を単元型の指導計画で授業を進めていく。２・３時間目は，自分たちが思い描く桜の情景に近づく表現にするために，箏の様々な奏法を活用して，「さくらさくら」を表現していくのだが，２時間目は個人で，３時間目はグループで考えさせ，試行錯誤を繰り返しながら表現させていきたい。
表現活動を行う際，１時間目に使用した奏法のイメージや音色について記入したイメージシートの活用や，演奏家の奏法の映像をいつでも見て確認することができるようにしておき，思い描く情景に合った奏法を根拠をもって選択できるようにさせたい。
また，２時間目は個人の楽譜を，３時間目は拡大楽譜を使用し，数字譜や言葉，奏法，絵などを書き込み，グループの仲間と共有しかかわり合いながら進めていく。
その際，個人で考えたものを最低１箇所は取り入れるようにさせたい。そして，その過程で一人一人の異なる考えを仲間と伝え合うことで対話的な学びを追求し，弾いて試し，試行錯誤を繰り返しながら私たちの「さくらさくら」を表現させていきたい。
４時間目は，グループで考えた私たちの「さくらさくら」を更に練り上げ，まとめの発表をする。箏の様々な奏法を用いて工夫することで，表現の多様性を感じ取らせたい。

（３）展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される生徒の反応	■評価規準　○留意点
２時間目（前時） 導　入	T1 前の時間は箏の奏法について学習しましたね。どんな奏法があったかな？ S1 「押し手」「流し爪」「トレモロ」「合せ爪」 T2 それぞれの奏法は音色やイメージが違ったよね。どんな感じがしましたか。 S2 「流し爪」はなめらかで桜が風に舞っている感じがした。「ピッツィカート」は爪で弾くよりやわらかい感じがした。「合せ爪」は１本の弦で弾いた時より音が大きくしっかりした感じに聞こえた。	○生徒は３人１組のグループで座っている。
1　前時に鑑賞した映像を見て奏法を確認する。	T3 奏法についてもう一度映像で確認してみよう。 T4 奏法が違うと音のイメージもだいぶ違いましたね。 T5 様々な箏の奏法を使うと「さくらさくら」はどんな風に変わるのだろう。	○押さえておく奏法を説明しながら鑑賞させる。 ○共通で押さえておく奏法「押し手」（強押し・弱押し・後押し）「合せ爪」
展　開 2　学習課題を確認する。	学習課題 私の思い描く桜の情景を箏で表現するためには，どんな奏法をどのように使えばよいのだろうか。 T6 今日は思い描く桜の情景を，学習した箏の奏法などを使って，「さくらさくら」の曲で表現してもらおうと思います。	
3　桜の写真を見て，自分が思い描く桜の情景をイメージする。　（個人）	T7 どんな桜の情景を表現したらいいのか写真を見てイメージを膨らませてみてください。	○桜の写真のスライドショーを用意。
4　どんな桜の情景にするのか話し合い，情景を楽譜に記入する。（グループ）	T8 グループでどんな桜の情景にするのか話し合って，桜の情景を楽譜に記入しましょう。 T9 記入したら，その情景を「さくらさくら」の曲に当てはめて楽譜の横に話し合いながら記入していきます。	○第１音楽室で行う。（２会場に分かれない）
5　桜の情景にタイトルをつける。　（グループ）	T10 最後にグループで話し合ってタイトルをつけて記入してください。	○タイトルはグループの用紙に記入させる。
6　桜の情景をもとに私の「さくらさくら」を考える。　（個人）	T11 今日は思い描いた情景に合った奏法等を個人で工夫して表現していきましょう。	

	T12 楽譜は数字譜だけでなく，言葉や文字，奏法，絵など演奏する上でわかりやすいように記入してください。	○楽譜は数字譜だけでなく，言葉や文字，奏法，絵など演奏する上でわかりやすいように記入させる。
	T13 奏法が分からなくなったり，迷ったりしたらテレビの前のパソコンを操作して奏法を見ることができます。	○奏法の映像はいつでも見ることができるようにしておく。
	T14 箏は２面をグループの３人で交替しながら使ってください。３分になったら合図するので交替してください。	○箏２面を３人で使用。 ○３分で交替の指示を出しローテーションしながら考えさせる。
	T15 演奏の順番がくるまで，試してみた奏法や，この奏法がイチオシという私のおすすめのポイントやこだわりのポイントに印をつけ，楽譜の裏にその理由を記入します。 S3　難しいな～。 S4　この奏法はこの部分のイメージに合っているな。	○「○○」と「○○」の奏法を使って○○な感じを音で表現した等，なぜその奏法を選んだのか根拠をもって選択し，イメージと奏法を結びつけながら活動させる。 ○個人の作成が早いところは３時間目のグループ活動に入らせる。 ■イメージに合わせた表現を自分なりに工夫することができる。 【音楽表現の創意工夫】 ■箏の奏法の音楽のイメージと自分の情景のイメージを結びつけようとしている。 【音楽への関心・意欲・態度】 ***■知覚・感受しながら，自分が思い描く「さくらさくら」にふさわしい箏の奏法を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。*** ***［思考力・判断力・表現力等］***
終　末 7　ワークシートにどんな工夫をしたのか記入する。 8　数人が発表する。	T16 思い描いた桜の情景にするためにどんな工夫をしましたか？ S5　流し爪を使って，桜が舞い散っている様子を表現しました。 S6　ピッツィカートを使って，桜の花が咲い	○なぜその奏法を選んだのかきちんと説明させる。

	ていく様子を表現しました。 S7　掻き爪や輪連，流し爪を使って嵐を表現しました。	
9　まとめを確認する。	まとめ ・流し爪を使うと，桜が舞い散っている情景が表現できる。 ・ピッツィカートを使うと，桜の花が咲いていく情景が表現できる。 ・掻き爪や輪連，流し爪を使うと，嵐の情景が表現できる。	○生徒の言葉からまとめを導き出すようにする。
10 振り返りシートに記入する。	T17 今日の振り返りを振り返りシートに記入してください。	
３時間目（本時） 導　入 1　前時の学習を確認する。まとめを確認する。	T1 前の時間はグループで思い描いた桜の情景に合わせて，様々な奏法を使って個人で私の「さくらさくら」を表現しました。 まとめ ・流し爪を使うと，桜が舞い散っている情景が表現できる。 ・ピッツィカートを使うと，桜の花が咲いていく情景が表現できる。 ・掻き爪や輪連，流し爪を使うと，嵐の情景が表現できる。	○第１音楽室に集合。
展　開 2　学習課題を確認する。	学習課題 私たちの思い描く桜の情景を箏の様々な奏法を使って表現していこう。 T2 今日は前回個人で考えた「さくらさくら」を思い描く桜の情景により近づけるためにグループで考えていきましょう。	○学習課題が「私の」から「私たちの」に変わっていることを意識させる。 ○第１音楽室と第２音楽室に活動場所を分けておく。
3　授業の流れを確認する。	T3 授業の流れを確認します。 （掲示してある文章を読んで確認させる）	○授業の流れを２会場に掲示しておく。
4　グループ活動の進め方を確認する。	T4 グループ活動の進め方を説明します。 （掲示してある文章を読んで確認させる）	○注意事項を２会場に掲示しておく。
5　桜の情景をもとに私たちの「さくらさくら」を考える。　（グループ） ①　それぞれのおすすめポイントを出し，班長は拡大楽譜にチェックする。	S1 前半の部分の奏法はどの奏法がこの情景に一番合っていると思う？	○注意事項を確認した後５つのグループは第２音楽室に移動する。 ○教師は両方の活動場所を平均的に見て，指導する。

② 前半の部分はどんな奏法を使ったのかそれぞれ出し合う。 ③ それぞれが出し合った奏法で演奏し，メンバーで聴き合う。	S2 私は○○さんの考えた奏法が風が吹いていて桜が舞い散っている感じがしていいと思うな。 S3 私は□□さんの奏法から○○さんの奏法につなげて演奏してみるともっと情景に合うような気がする。 S4 じゃあ試して弾いてみよう。	○奏法の映像はいつでも見ることができるようにしておく。 ○３人１グループで箏を２面使用し，自分が考えた奏法をそれぞれが演奏し，話し合いながらつくっていく。 ○個人で考えた奏法を一箇所は必ず入れさせる。
④ その情景に一番合っていると思う奏法を話し合いで決定する。 ⑤中盤，後半も同様に行う。 ⑥全てできたらもう一度全体を弾いてみて，グループで確認する。	【話し合いがうまくできていないグループ】 一人一人から言葉を出すように促していき，意見をまとめていくようにさせる。 【意見が対立しているグループ】 問題点を明確にさせ，演奏させながらよりよいものを選択させる。どうしてもこれをという人がいた時は，その箇所は一方を優先させるかわりに，他方は別の生徒の意見を取り入れるようにさせる。 【できないで困っているグループ】 奏法の特色について記入したワークシートを参考にさせたり，いくつか奏法を弾いて見せたりしながら進めさせる。 【上級グループの生徒】 更に表現が工夫できないか考えさせたり，工夫した表現でしっかり演奏できるように練習させたりする。	○話し合いの時，おすすめポイントとしてあげている人がいた場合，なるべく採用させる。 ○拡大楽譜は数字譜だけでなく，言葉や文字，奏法，絵など演奏する上でわかりやすいように記入させる。 ■箏の奏法の変化による演奏の違いに興味や関心をもち，仲間とかかわり合いながら主体的に活動に取り組むことができる。 【音楽への関心・意欲・態度】 ■自分たちのイメージに合わせた表現を工夫することができる。 【音楽表現の創意工夫】 *■知覚・感受しながら，自分が思い描く「さくらさくら」にふさわしい箏の奏法を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。* *［思考力・判断力・表現力等］*
終　末 6 振り返り ２つ程度のグループの発表を聴く。	T5 それぞれのグループで様々な「さくらさくら」ができましたね。 T6 これから前半の部分を中心に２つ程度ののグループに発表してもらいます。 S5 発表 T7 この部分はどんな情景を表現しましたか。	○時間になったら全員第１音楽室に集合させる。

	S6 太い大きな桜の木をイメージしました。 T8 ここの部分で合せ爪を使っていましたね。どうして合せ爪にしたのかな。 S7 合せ爪の奏法は二つの弦で弾くので音が大きく聴こえて，太くて大きな桜の木の情景に合っていると思ったからです。 T9 そうですね。ここの部分は合せ爪の奏法を使うと太くて大きな音になって，イメージにぴったりですね。 T10 様々な奏法を使うと，いろいろな「さくらさくら」が表現できますね。 T11 次回は更に練り上げて今日つくった私たちの「さくらさくら」を発表し，聴き合います。 T12 今日の振り返りを振り返りシートに記入してください。	○教師が補足説明しながら比較演奏し，奏法の特徴について評価する。
7 振り返りシートに記入する。		
４時間目（次時） 1 グループの用紙にタイトルと思い描いた桜の情景，工夫したところ（おすすめポイント）を記入しておく。 2 演奏する箇所を３人で割り振る。 3 グループで考えた私たちの「さくらさくら」を更に練り上げる。 4 グループごとに私たちの「さくらさくら」を発表する。 5 発表を聴き合い感想をワークシートに記入する。 6 感想を発表する。	T1 １グループ３人で３面の箏を使用し，他のグループと交替で使用してください。 T2 発表の時にグループの用紙をボードに掲示し，タイトル，思い描いた桜の情景，工夫したところ（おすすめポイント）を発表してから演奏するので，しっかり記入しておきましょう。 T3 ３人でそれぞれの箇所を分担して演奏するので事前に割り振って練習しておきましょう。 学習課題 箏の奏法はどのような演奏効果をもたらしているのだろうか。 T4 各グループのタイトル，思い描いた桜の情景の発表からイメージを膨らませ，工夫したところ（おすすめポイント）の演奏に注目して聴きましょう。 まとめ 箏の様々な奏法を使用すると，多様な桜の情景を表現することができ，音楽表現を豊かにしている。	■箏の奏法を身に付け，自分たちが思い描く桜の情景を，様々な奏法で私たちの「さくらさくら」として表現することができる。 【音楽表現の技能】 ■それぞれのグループの発表を聴き，思い描く桜の情景と箏の奏法を関連づけながら聴き合うことができる。 【鑑賞の能力】 ***■他グループの演奏から箏の奏法と思い描く桜の情景とのかかわりを感受し，言葉で言い表すことができる。*** *［判断力］*

（４）評価　　※展開の中で記述